

令和 6 年 6 月 13 日現在

機関番号：12701

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2018～2023

課題番号：18K01564

研究課題名（和文）地域経済統合における経済制度の多様性と成長体制の相互依存性：EU・アジア比較分析

研究課題名（英文）The Varieties of Economic Institutions and the Interdependence of Growth Regimes in Regional Economic Integration: EU-Asian Comparative Analysis

研究代表者

植村 博恭 (Uemura, Hiroyasu)

横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・名誉教授

研究者番号：70184976

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、EUと東アジアにおける地域統合の構造的特徴と動態を、経済制度の進化的多様性と成長体制の相互依存性の観点から分析した。特に、研究の成果として次の本を出版した。Boyer, R., Uemura, H., Yamada, T. and Song, L. (eds.) *Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms: Transformations of Regional Integration in EU and Asia*, Springer, 2018。磯谷明德・植村博恭編『制度と進化の政治経済学』日本経済評論社、2022年。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、資本主義の多様性をふまえてEUと東アジアにおける地域統合の構造的特徴と動態を両地域における経済制度の多様性と成長体制の相互依存性の観点から比較分析するものである。これによって、2000年以降の地域統合の理論的研究と実証研究を新たなかたちで発展させることができた点で、大きな学術的意義がある。また、EUと東アジアにおける地域統合の特質を正確に理解することによって、パンデミックや地域紛争に対応できる有効な国際経済政策を構想することができた点で社会的意義を持っている。

研究成果の概要（英文）：This study analyzes the structural characteristics and dynamics of regional integration in the EU and East Asia from the perspective of the evolving diversity of economic systems and the interdependence of growth regimes.

In particular, the following books were published as the results of research. Boyer, R., Uemura, H., Yamada, T. and Song, L. (eds.) *Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms: Transformations of Regional Integration in EU and Asia*, Springer, 2018. Akinori Isogai and Hiroyasu Uemura (eds.), *Political Economy of Institutions and Evolution*, Nihon Keizai Hyoronsha, 2022.

研究分野：比較制度分析、マクロ経済分析

キーワード：地域経済統合 経済制度の多様性 成長体制の相互依存性 EU 東アジア レギュレーション理論 調整の重層性 コロナ危機

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

近年、EUと東アジアにおける地域経済統合が急激な転換を経験している。EUにおけるユーロ危機、経済格差の拡大、ブレクジット、そして東アジアにおける中国経済の急成長に伴う国際分業構造の再編などが生じている。このような世界においては、地域経済統合が単線的に発展すると考える理解は、もはや現状を説明できなくなっている。

本研究は、EU諸国や東アジア諸国の研究者との国際的共同研究を進展させつつ、各国の経済制度の多様性と成長体制の相互依存性の観点から、EUと東アジアの地域経済統合の構造と動態を比較分析し、そのことによって地域経済統合の理論研究と実証研究を新たに再構成し発展させることを目指してきた。本研究は、特に次の点に焦点をあてて進められた。第1に、EUと東アジアそれぞれの地域において経済制度の多様性が存在することに注目し、制度的統計データを解析し比較制度分析を進展させている。第2に、EUと東アジアにおける各国の成長体制の異質性と国際的相互依存性を分析し、地域経済統合の動態を考察している。そのために、国際産業連関分析とマクロ経済分析を総合し研究を進展させてきた。

2. 研究の目的

本研究の目的は、急速な転換を経験しつつあるEUと東アジアにおける地域経済統合の構造的特徴とその動態を、両地域における各国の経済制度の多様性と成長体制の国際的相互依存性の観点から比較分析することである。本研究は、主として経済システムの構造と動態の分析を基礎とするが、それとやらんで政治的要因を重視する国際政治経済研究の知見もふまえて進められてきた。これによって、地域経済統合の理論研究と実証研究を新たなかたちで再構成し発展させている。また、そこから地域経済統合に対する政策的含意を積極的に導出してきた。本研究は、制度分析と政治経済学分析を総合するアプローチに基づいて、地域経済統合研究を進展させる。

3. 研究の方法

本研究の方法の特徴は、次のような点にある。第1に、EUにおける各構成国の経済制度の多様性に関する比較制度分析と成長体制の国際的相互依存性分析を統合し、経済要因と政治的要因の相互作用の観点から欧州統合の動態を分析する。EUにおける北欧、中欧、南欧、そしてイギリスなどの経済制度と経済構造の異質性に注目している。特に、労働制度や社会保障制度は、「欧州化 (Europeanization)」が進行するなかでも依然として多様性を維持している。そのような異質な制度的構造を持った各国の成長体制に、共通市場や共通通貨などを通して強い相互依存性が存在するため、ユーロ危機、脱工業化の多様性、移民問題、貿易不均衡などが発生している。分析手法としては、経済制度の多様性については、制度要因を反映した経済データを解析するとともに、成長体制の異質性と国際的相互依存性については、国際産業連関分析とマクロ経済分析を総合することによって研究を進めている。EU構成国間では、中欧 (ドイツ、オランダ)、北欧 (スウェーデン、フィンランド)、南欧 (イタリア、スペイン、ポルトガル)、イギリスにおいて成長体制が異なっているが、単一通貨 (ユーロ) と域内貿易によって強い相互依存性が存在している。そこから生み出される各国の経済成長、国際収支、脱工業化に関する不均等なパターンを分析してきた。ユーロ危機は、異質な経済制度と成長体制を持った構成国に単一通貨ユーロを導入し、しかも財政連邦主義を確立できなかったことに原因がある。各国の経済構造の相互依存性に関しては、特に国際産業連関分析が有効であり、本研究では World Input-Output Database (WIOD) を積極的に用いて分析を進めてきた。

第2に、東アジアにおける各国の経済制度の多様性と成長体制の相互依存性を分析し、多国籍企業の経済活動に牽引されて発展するアジア経済統合を分析している。東アジアの資本主義は、地理的位置も発展段階も大きく異なるので、強い多様性を示している。アジア資本主義の制度的構図は、5つの類型に分類できる：イノベーション・輸出主導型 (日本、韓国、台湾)、大陸混合経済型 (中国)、都市型 (シンガポール、香港)、貿易主導工業化型 (タイ、マレーシア)、島嶼半農型 (インドネシア、フィリピン) (Harada and Tohyama 2018)。特に、雇用制度と社会保障制度、そして産業構造については、大きな制度的多様性が存在する。東アジアにおいては、中国の急速な経済成長と人口変動、さらに多国籍企業の国際的な活動に牽引された「事実上の経済統合」が加速している (木崎 2017)。それによって、国際分業構造が急速に再編されつつあり、強い経済的相互依存性が生み出されている。分析手法としては、各国の経済制度及び多国籍企業に関するデータを解析するとともに、各国経済構造の相互依存性に関しては国際産業連関分析が有効なので、本研究では、World Input-Output Database (WIOD) 及びアジア諸国をカバーしている Yokohama National University Global Input-Output Table (YNU-GIO) を用いて分析を進めている。

第3に、EUと東アジアの地域経済統合の構造と動態を比較することによって、単線的発展段階論とは異なるかたちで、経済制度の多様性と成長体制の国際的相互依存性の観点から地域経済統合理論を再構築する点であり、これが本研究の創造的な点である。EUにおける国際政治主導型の地域経済統合とアジアにおける多国籍企業活動主導型の「事実上の経済統合」の性格の相違を明確にしつつ、両地域における経済制度の多様性の様態と成長体制の国際的相互依存性の構造を析出し、そこから各国にとって地域経済統合に対する政策的含意を導出している。

4. 研究成果

本研究の期間中には、コロナ危機が発生したこともあって、国際コンファレンスの開催や現地調査は中止せざるをえなかった。しかし、国際的なコミュニケーションを積極的に発展させることによって、研究成果は、地域経済統合の動態分析とコロナ危機をふまえた理論的枠組みの再構築の双方にわたって十分に達成することができた。

(1) EUと東アジアの地域経済統合に関する国際共同研究の成果

EU諸国やアジア諸国の研究者との国際共同研究の成果は、次の書籍によって発表されている。

Boyer, R., Uemura, H., Yamada, T., and Song, L. (eds.) *Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms: Transformations of Regional Integration in Europe and Asia*, Springer, 2018.

本書の内容とこれをふまえたその後の共同研究の展開全体をまとめれば、次のようになる。

- 1) 欧州統合とアジア経済統合の論理の比較分析 (Chapter 2: Robert Boyer, “Two Dialectics between Polity and Economy: European and Asian Integration Processes Compared”)
- 2) 東アジア経済統合の構造変化 (Chapter 3: Hitoshi Hirakawa, “Transformation of the World Economy and the Institutionalization of the East Asian Region”)
- 3) EUと東アジアにおける貿易不均衡の比較分析 (Chapter 4: Uni Hiroyuki, “Comparative Analysis of Regional Trade Imbalance in East Asia and the Eurozone”)
- 4) EU諸国と日本の脱工業化の比較分析 (Chapter 5: Hiroyasu Uemura and Shinji Tahara, “The Evolving Diversity and Interdependence of Growth Regimes and De-industrialization in European Countries and Japan”)
- 5) 欧州統合の政治的側面とブレクジット (Chapter 10: Robert Boyer, “Brexit: Lessons for the Viability of the European Union and Other Regional Integration”)
- 6) 東アジア資本主義の制度的多様性 (Chapter 12: Hironori Tohyama and Yuji Harada, “Institutional Diversity and Industrial and Innovative Specialization in Asian Capitalisms”)
- 7) 中国の経済発展の構造的特徴 Chapter 13: Lei Song and Chengnan Yan, “Dynamics of Developmentalism as the Mode of Régulation: Formation, Weakening and Redesign of Flexibility Rigidity”
Chapter 14: Lei Song, “Modular Mode of Production, Chinese Styles: Origin and Evolution”
- 8) 日本経済の長期的構造変化 (Chapter 15: Hiroshi Nishi, “Structural Change, Sectoral Disparity and Economic Growth Process in Japan”) (さらなる研究成果として、Nishi (2023)を参照)
- 9) 日本企業の多国籍的展開と調整様式の変容：人間中心型発展に向けて (Chapter 16: Yasuro Hirano and Toshio Yamada, “Multinationalization of Japanese Firms and Dysfunction of Companyist Régulation”)
- 10) EUと東アジアの地域経済統合の総合的比較分析

①資本主義多様性の全体的構図

まず、東アジアにおいては、これまでの遠山弘徳と原田裕治の研究によって、現在の世界において、次のような異なったタイプの資本主義が存在することが確認されてきた。

・イノベーション・輸出主導型資本主義：日本、韓国、台湾：製造業における積極的なイノベーションに基づく輸出主導型成長：・都市型資本主義：香港、シンガポール：高水準の市場の自由化と高い貿易依存度。低い水準の社会防衛と金融部門の高い収益性：・大陸混合型資本主義：中国 市場の自由化の度合いは低い、大きな人口と巨大な潜在的市場を有する。国内に複数の経済システムを持っているが、中央政府のコントロールが有効に効いている：・貿易主導型工業化資本主義：マレーシア、タイ 外国企業の誘致に基づく工業化が進展、市場の自由化が進む：・島嶼半農型資本主義：インドネシア、フィリピン 低水準の市場自由化と農業・プランテーションへの依存。また、欧米においては、次のような類型が存在している。・アングロサクソン型資本主義：アメリカ合衆国、イギリス、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド：高水準の市場自由化と比較的高い貿易依存度の国々である。・北欧・中欧型資本主義：スウェーデン、デンマーク、フィンランド、ドイツ：比較的高水準の市場自由化と比較的高い水準の社会防衛が存在し、イノベーションも高水準で実現している：・南欧型資本主義：中水準の市場自由化と比較的低い対外貿易依存度と高い水準の社会防衛を特徴としている。

本共同研究では、資本主義の多様な類型の変化について、最新のデータをもとに分析を行ってきた。その結果、日本の資本主義は、韓国、台湾とのクラスターから次第に離れ、アングロサクソン・クラスターに接近していることが確認された。資本主義の多様性に関するこの構図で重要なのは、次の点である。新しい形態の資本主義である中国の発展が特徴的で、中国経済は人口動態と市場拡大を伴って急速に発展している (木崎 2017)。中国にとって、東アジア地域経済統合を発展させることは重要な戦略となっている。欧州統合においては、ヨーロッパ資本主義の対照

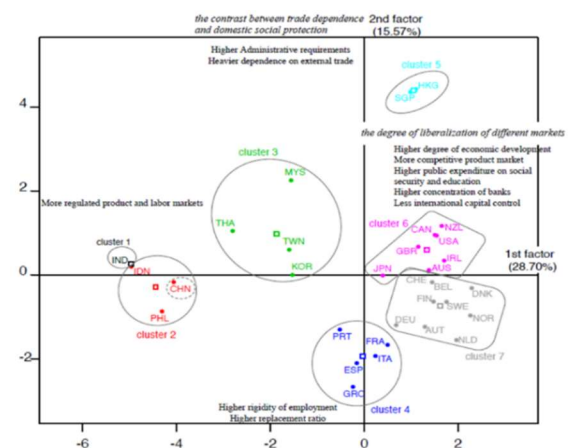


Figure 1. Institutional Diversity of Advanced and Asian Capitalism: 2004-2011

的な類型が存在している。南欧の国家主導資本主義の消費主導型成長（フランス、イタリアなど）、北欧諸国の社会民主主義資本主義（ドイツはこれに近い）の輸出・イノベーション主導型成長、イギリスの市場支配資本主義の金融主導型成長体制であり、これに東欧の資本主義が加わることで、欧州統合の国際的な動態が規定されている。

以上の分析結果を総括すると、すべての資本主義がワン・ベストウェイに収斂しつつあるのではなく、異なる制度的編成をもった資本主義間の国際的相互依存が強化されつつ、多様な資本主義の動態が生み出されている。多様な資本主義はその規模、貿易特化パターン、地理的な特殊性、イノベーションのパターンなどを伴って、多国籍企業が支配する国際市場の動態のなかに存在し、様々な社会の間で顕著な階層構造が生みだされてきた。

② EUと東アジアにおける多様な資本主義の国際的相互依存の変化

世界経済の全体的な構造変化について、世界国際産業連関表（WIOD）を用いて分析することによって、重要な研究成果が得られた。特に、EU及び東アジアにおける地域統合の構造的なパターンを析出することができた。

Table 17.2 Changes in input coefficient matrix, 1995-2014

Input Coefficient Matrix, 1995		Cells with a value ≥ 0.005 are shadowed.											
Supply/Demand		Japan	Korea	China	Taiwan	Indonesia	India	US	UK	France	Germany	Italy	Other EU countries
Japan													
Korea													
China													
Taiwan													
Indonesia													
India													
US													
UK													
France													
Germany													
Italy													
Other EU countries													

Input Coefficient Matrix, 2014		Cells with a value ≥ 0.005 are shadowed.											
Supply/Demand		Japan	Korea	China	Taiwan	Indonesia	India	US	UK	France	Germany	Italy	Other EU countries
Japan													
Korea													
China													
Taiwan													
Indonesia													
India													
US													
UK													
France													
Germany													
Italy													
Other EU countries													

Table 17.3 Changes in trade matrix of final goods/services, 1995-2014

Trade Matrix of Final Goods/Services, 1995		Cells with a value $\geq 1.0\%$ are shadowed.											
Supply/Demand		Japan	Korea	China	Taiwan	Indonesia	India	US	UK	France	Germany	Italy	Other EU countries
Japan													
Korea													
China													
Taiwan													
Indonesia													
India													
US													
UK													
France													
Germany													
Italy													
Other EU countries													

Trade Matrix of Final Goods/Services, 2014		Cells with a value $\geq 1.0\%$ are shadowed.											
Supply/Demand		Japan	Korea	China	Taiwan	Indonesia	India	US	UK	France	Germany	Italy	Other EU countries
Japan													
Korea													
China													
Taiwan													
Indonesia													
India													
US													
UK													
France													
Germany													
Italy													
Other EU countries													

Source: WIOD/2016

この分析結果では、EU域内貿易の安定、及び東アジアにおける中間財貿易の拡大、アジア経済統合における中国の役割の変化が特徴的である。まず、世界国際産業連関表（WIOD）における投入係数行列の変化（1995年と2014年の比較）においては、EU域内では中間財貿易の構造自体には、大きな変化は生じていないが、対照的に東アジアにおいては、急速に成長する中国経済が中間財の輸入経済から、中間財の輸出及び輸入両方を拡大させる経済へと大きく変化している。EUと東アジアをまたがり、中国からドイツへの中間財輸出の増加も確認できる。最終財貿易行列の変化（1995年と2014年の比較）においては、EUにおける最終財の貿易構造には大きな変化はないが、東アジアにおいては、中国が最終財の輸出経済から最終財の輸出・輸入両方を行う経済へと変化していることがみてとれる。中国は巨大な国際的市場として発展している。また、EUと東アジアをまたがり、ドイツから中国への最終財輸出の増加も確認できる。

さらに、多様な成長体制の国際的相互依存性の分析の基礎には、近年目覚ましい発展を遂げている国際価値論の研究がある（Shiozawa, Morioka and Taniguchi 2019）。安定的な国際価値のもとで、中間財と最終財の国際的数量調整過程が進行している。それは、国際的な需要波及過程、すなわち国際的ケインズ乗数過程と国際的レオンチェフ乗数過程に媒介されている（Uemura 2023）。しかも、貨幣・金融的側面を視野に入れば、各地域における為替レート体制の性質が重要である（Uni 2018）。為替レート体制においては、国際経済システム及び地域経済統合の相互依存性と各国資本主義の国内的調整様式との両立可能性が重要である。しかし、EUでは、ユーロ圏での連邦主義的な財政的再分配の欠如を柔軟な為替レートが補完する可能性があったが、そのような為替調整メカニズムが消滅したことが、ユーロ危機への劇的な転換を説明する。地域統合の軌道は、異質な国民経済的な調整様式と成長体制の国際的相互依存性によって規定される。

③ EUと東アジアにおける地域統合における国内—地域—国際関係の構造的特徴

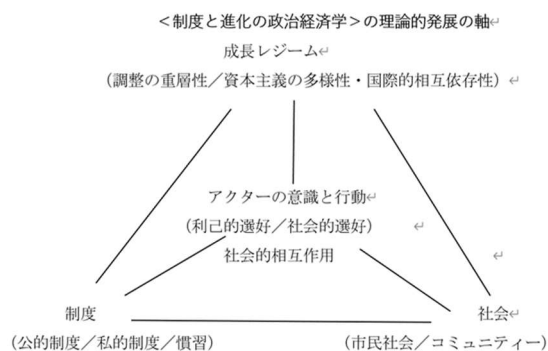
政治経済学的観点から、EUと東アジアにおける地域統合の特徴を、国内—地域—国際関係という重層的な構造として比較分析することが有効である。東アジアにおいては、国際的な政治的合意の形成はきわめて弱く、地域レベルでの制度的調整も弱いものの、多国籍企業の経済活動による事実上の地域経済統合が急速に進行してきた。特に、日本、中国、韓国、台湾の多国籍企業が、積極的に国際生産ネットワークを発展させている。さらに、中国経済の急速な発展によって国際分業に大きな構造変化が生じている。EUにおいては、欧州統合という政治的目標が明確で、地域レベルで次第に制度化が進み、共通市場や単一通貨、そして人の自由移動が実現してきた。しかし、その反面、経済活動の統合は、異なる経済構造や成長体制をもったEU構成国間に単一通貨ユーロを導入したことによって、ユーロ危機なども生じている。また、移民・難民問題でも、欧州化は必ずしも順調に進んではない。EU構成国間の政治的合意のためには、構成国間の連帯と市民による民主的なコントロールが必要となっている。EUにおける地域統合の機能主義的理解の限界は、2010年代のユーロ危機と移民問題の激化によって明らかになった。さらに、EUにおける国際的ガバナンスの問題点は、イギリスのEU離脱（ブレクジット）によって、より深刻なものとなっている。

(2) 経済システムの制度的多様性と成長体制の国際的相互依存性の理論的体系化

本共同研究における資本主義の多様性と国際的相互依存性に関する実証研究の成果をふまえて、制度と進化の政治経済学の観点から、経済システムの制度的多様性と成長体制（レジーム）の国際的相互依存性の理論的体系化を行い、次の本を出版した。磯谷明徳・植村博恭編『制度と進化の政治経済学：調整の重層性と多様性』日本経済評論社、2022年。

① 時間と空間の重層性をふまえた制度・成長体制・社会の分析

資本主義の制度的多様性と国際的相互依存性を解明する「制度と進化の政治経済学」において特に重要な観点が、時間と空間の重層性である。社会経済システムとしての資本主義の再生産と成長は、様々な調整によって達成されている。本共同研究において参照しているレギュレーション理論における「レギュレーション（régulation）」とは、まさに「制度」のもとで社会経済的アクターの行動が動的な規則性を生み出す作用を意味している。それは、コーディネーション（調整）の様々な領域を含み、複合的かつ重層的な構造を持っている。「成長体制（レジーム）」の分析については、調整の時間的・空間的重層性と成長体制の国際的相互依存性の観点からレギュレーション理論とポスト・ケインジアン理論の連携を進展させることが重要である。さらに、より根底的で長期的な領域である「社会」については、市民社会において市民の社会的選好が発展する制度的諸条件を解明している。そして、これら三領域において共通に重要なのが、社会経済アクターの意識と行動、社会的選好の役割である。このような社会経済アクターの社会的相互作用が、重層的な諸制度を再生産するとともに進化させ、マクロ経済の累積的動態を生み出す。また、制度による誘導とマクロ経済動態の変動が、アクターの意識や行動に影響を与える。資本主義において、「制度」の積極的役割が重要であり、政治経済学における制度理論の再構築が期待される（Uni 2020; Isogai 2024）。「制度」の分析と「社会」に対する認識をふまえて、多様な資本主義の「成長体制」とそれらの国際的相互依存性の分析が展開されることになる（Uemura 2023）。さらに、制度の役割と調整の重層性を念頭におきつつ、「社会」を、特に「市民社会」とそこにおける社会的選好について分析することで社会認識を深めていくことができる（山田 2028; 2022）。しかも、これら3つの分析領域において、社会経済アクターの意識と行動が内生的に形成される。制度的環境のもとで、社会経済アクターの意識や行動とその相互作用が、諸制度を再生産するとともに、成長体制の多様な動態と国際的相互依存性を生み出す。そして同時に、成長体制の動態の安定性や不安定性、そして国際的相互依存性が、社会経済アクターの意識や行動に影響を与えるのである。



② 重層的な調整の諸領域と多様な原理—コロナ・パンデミック分析への視点

本共同研究では、多様な資本主義の重層的調整と国際的相互依存性に関する分析に基づいて、コロナ・パンデミックに関する分析への視点を得ることができた。政治と経済、国家と市場の関係にとどまらず、「社会（市民社会あるいはコミュニティー）」の領域を視野におさめるかたちで、市場—企業—国家—社会の相互規定関係を分析できるようになったことが、大きな理論的成果である。市民社会あるいはコミュニティーは、人々の水平的関係であり、しかも社会的選好、信頼、義務といった要素によって規定されている（Harada 2019）。国家と市民社会の双方にまたがるものとして、「社会的共通資本」の役割についても重視されるべきで、「社会的共通資本」としての社会的インフラストラクチャーと所得分配のあり方は、それぞれの資本主義の成長体制の動態に影響を与える（Nishi and Okuma 2023）。社会経済システムの諸領域をふまえた重層的な時間と空間の認識の再構築は、現在人類が直面しているコロナ・パンデミックの分析についても有効な理解をもたらす。ボワイエ（2020）が強調するように、経済を社会や政治、社会保障や医療の中に再度埋め直す必要がある。ボワイエが展望する「人間形成型発展」は、人間の生存を長期的に保証し、人間の持っている潜在能力の発展を社会的諸制度によって支えることのできる社会発展のあり方である。そのような発展なかでは、経済の時間、人間の生存と発展の時間、環境に関わる時間といった重層的な時間において調整を実現していくことが望まれる。また、人間の生存を支えるローカルな地域から国民的領域を経て、地域統合の国際的相互依存性の領域にいたる重層的な空間で、様々な制度と活動を再編成していかなければならない（山田 2022）。

(3) 共同研究のまとめ

本国際共同研究は、当初、資本主義の進化的多様性と国際的相互依存性に関する理解を深め、EUと東アジアにおける地域統合に関する比較分析を進展させた。ローカル—リージョナル—グローバルという重層的空間において、政治と経済の諸領域にわたって、EUと東アジアでは異なる地域統合の動態が存在してきたことが確認された。成長体制の国際的相互依存性に関する分析のための理論的基礎も発展しつつある（Uemura 2023）。さらに、本共同研究の実施期間中に世界的なコロナ危機が発生したが、これは国際的共同研究を大きく前進させる起動力となった。コロナ感染の世界的な蔓延と各国政府の政策的対応の多様性を考察することで、そこに存在する複雑な時間構造と空間構造を深く認識することができ、現代世界における市場—企業—市民社会の相互関係の再編という課題を確認した（遠山 2024）。本共同研究の成果として築かれた国際的共同研究プラットフォームは、今後とも重要な役割を果たしていくものと期待される。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計41件（うち査読付論文 20件 / うち国際共著 2件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 Hironori Tohyama	4. 巻 9(1)
2. 論文標題 Technological and Institutional Space, Entrepreneurial Activities and Innovation in Asian Economies	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Journal of Entrepreneurship and innovation in Emerging Economies	6. 最初と最後の頁 1-34
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠山弘徳	4. 巻 第60巻第4号
2. 論文標題 縮小する資本主義領域 - 市場・国家・市民社会のシナジー	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 季刊経済理論	6. 最初と最後の頁 44-53
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Akinori Isogai	4. 巻 Chapter 3
2. 論文標題 On the Problem of Institutions in Evolutionary Economics	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 Yagi, K. et al. (eds.) Present and Future of Evolutionary Economics: Japanese Perspectives, Springer.	6. 最初と最後の頁 40-60
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyasu Uemura	4. 巻 20
2. 論文標題 Theoretical foundations of the international interdependence of growth regimes: price system, income?demand linkage, and quantity adjustment	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Evolutionary and Institutional Economics Review	6. 最初と最後の頁 425 ~ 455
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40844-023-00269-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Nishi	4. 巻 49(1)
2. 論文標題 Revisiting Baumol's growth disease in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 The Japanese Political Economy	6. 最初と最後の頁 64-85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Nishi	4. 巻 20
2. 論文標題 Book review on Hiroyasu Uemura, Japanese Institutional Post-Keynesians Revisited: Inheritance from Marx, Keynes and Institutionalism	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Evolutionary and Institutional Economics Review	6. 最初と最後の頁 181-190
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Nishi, Kazuhiro Okuma	4. 巻 20
2. 論文標題 Fiscal policy and social infrastructure provision under alternative growth and distribution regimes	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Evolutionary and Institutional Economics Review	6. 最初と最後の頁 259 ~ 286
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40844-023-00262-y	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯谷明德	4. 巻 第1章
2. 論文標題 進化経済学における制度の問題	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 磯谷明德・植村博恭編『制度と進化の政治経済学』日本経済評論社	6. 最初と最後の頁 21-50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植村博恭	4. 巻 第2章
2. 論文標題 進化的制度分析と成長レジーム分析の統合	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 磯谷明徳・植村博恭編『制度と進化の政治経済学』日本経済評論社	6. 最初と最後の頁 51-84
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田鋭夫	4. 巻 第3章
2. 論文標題 市場経済と市民社会	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 磯谷明徳・植村博恭編『制度と進化の政治経済学』日本経済評論社	6. 最初と最後の頁 85-104
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田裕治・池田毅・西洋	4. 巻 終章
2. 論文標題 コロナ危機と社会経済システム：健康・経済・自由のトリレンマをどう打開するか	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 磯谷明徳・植村博恭編『制度と進化の政治経済学』日本経済評論社	6. 最初と最後の頁 337-362
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 遠山弘徳	4. 巻 第7章
2. 論文標題 新興経済における国家・経済ネクサスの多様性 - 『国家資本主義』モデル再考	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 磯谷明徳・植村博恭編『制度と進化の政治経済学』日本経済評論社	6. 最初と最後の頁 185-209
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田裕治	4. 巻 第10章
2. 論文標題 制度と信頼：資本主義の類型にもとづく比較分析	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 磯谷明徳・植村博恭編『制度と進化の政治経済学』日本経済評論社	6. 最初と最後の頁 158-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田原慎二	4. 巻 第6章
2. 論文標題 産業連関分析による成長レジームの波及効果推定	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 磯谷明徳・植村博恭編『制度と進化の政治経済学』日本経済評論社	6. 最初と最後の頁 158-181
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田鋭夫	4. 巻 第52巻第2号
2. 論文標題 『貯蓄から投資へ』の虚像と実像	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 現代思想	6. 最初と最後の頁 18-29
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 植村博恭	4. 巻 第72巻第2号
2. 論文標題 横浜国大経済学部の政治経済学群像 - 宮崎義一・長洲一二・岸本重陳・植村博恭 -	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 エコノミア	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Nishi	4. 巻 Vol. 60
2. 論文標題 Income distribution, technical change, and economic growth: A two-sector Kalecki-Kaldor approach	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Structural Change and Economic Dynamics	6. 最初と最後の頁 418-432
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 原田裕治	4. 巻 第53巻第3号
2. 論文標題 書評: 「ロベール・ボワイエ著『パンデミックは資本主義をどう変えるかー健康・経済・自由』藤原書店, 2021年	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 季刊 経済理論	6. 最初と最後の頁 98-100
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Kazuhiro Okuma and Yuji Harada	4. 巻 Online print
2. 論文標題 Robert Boyer, Les capitalismes a à l' epreuve de la pandemie, La Decouverte, 2020	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Evolutionary and Institutional Economics Review	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田鋭夫	4. 巻 第4号
2. 論文標題 レギュレーションの政治経済学	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本政治法律研究	6. 最初と最後の頁 63-76
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田原慎二	4. 巻 第72巻第2号
2. 論文標題 国際価値連鎖のもとでの国際生産構造の変化－国際産業連関表を用いた実証分析－	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 エコノミア	6. 最初と最後の頁 79-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 王佳・磯谷明德	4. 巻 第88巻第2・3号
2. 論文標題 中国上海市の住宅バブルに関する一考察	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済学研究	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西洋	4. 巻 第57巻第4号
2. 論文標題 日本経済における金融不安定性と負債比率の決定要因	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊 経済理論	6. 最初と最後の頁 7-33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Uni	4. 巻 Vol. 50, No. 4
2. 論文標題 John R. Commons' Criticism of WickSELL's Theory of Interest: Focusing on the Influence of R. G. Hawtrey	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Economic Issues	6. 最初と最後の頁 958-974
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯谷明德	4. 巻 1
2. 論文標題 経営史・技術史からみたチッソの企業体質とその特異性	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 富田義典・花田昌宣編著『水俣に生きた労働者』明石書店	6. 最初と最後の頁 216-249
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyasu Uemura, Hironori Tohyama and Yuji Harada	4. 巻 16(2)
2. 論文標題 Special feature: varieties of capitalism, civil society, and welfare/environmental policies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Evolutionary and Institutional Economics Review	6. 最初と最後の頁 427-432
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40844-019-00148-y	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyasu Uemura	4. 巻 16(2)
2. 論文標題 Social preference and civil society in the institutional analysis of capitalisms: an attempt to integrate Samuel Bowles' The Moral Economy and Robert Boyer's Regulation Theory	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Evolutionary and Institutional Economics Review	6. 最初と最後の頁 433-453
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40844-019-00141-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuji Harada and Hiroyasu Uemura	4. 巻 16(2)
2. 論文標題 Book Review : Robert Boyer, Economie politique des capitalismes: Theorie de la regulation et des crises, La Decouverte, 2015	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Evolutionary and Institutional Economics Review	6. 最初と最後の頁 551-566
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40844-019-00145-1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hironori Tohyama	4. 巻 16(2)
2. 論文標題 How does a liberalizing market influence a synergy between redistribution preference and social preferences in Asian socio-economies?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Evolutionary and Institutional Economics Review	6. 最初と最後の頁 455-477
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40844-019-00139-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Yuji Harada	4. 巻 16(2)
2. 論文標題 Diversity and transformation of institutional configurations and trust structures	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Evolutionary and Institutional Economics Review	6. 最初と最後の頁 479-501
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40844-019-00142-4	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Toshio Yamada	4. 巻 16(2)
2. 論文標題 Samuel Bowles: The moral economy: why good incentives are no substitute for good citizens	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Evolutionary and Institutional Economics Review	6. 最初と最後の頁 543-549
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/s40844-019-00143-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Nishi and Engelbert Stockhammer	4. 巻 71(1)
2. 論文標題 Cyclical dynamics in a Kaleckian model with demand and distribution regimes and endogenous natural output	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Metroeconomica	6. 最初と最後の頁 256-288
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/meca.12278	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 西洋	4. 巻 56(2)
2. 論文標題 自然産出水準の履歴効果, 所得分配と総需要および金融政策: カレツキアンアプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 季刊 経済理論	6. 最初と最後の頁 63-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 宇仁宏幸	4. 巻 56(4)
2. 論文標題 景気循環のミクロ分析	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 季刊 経済理論	6. 最初と最後の頁 54-67
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田鋭夫	4. 巻 4
2. 論文標題 レギュレーション理論の原点と展開	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 岡本哲史・小池洋一編『経済学のパラレルワールド 入門・異端派総合アプローチ』新評論	6. 最初と最後の頁 169-189
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山田鋭夫	4. 巻 6
2. 論文標題 制度の内部代謝と成長レジームの転換	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 宇仁宏幸・巖成男・藤田真哉編『制度でわかる世界の経済: 制度的調整の政治経済学』ナカニシヤ出版	6. 最初と最後の頁 116-134
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Robert Boyer, Hiroyasu Uemura, Toshio Yamada and Lei Song	4. 巻 17
2. 論文標題 Conclusion: The Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms and Conditions for Regional Integration	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms: Transformations of Regional Integration in EU and Asia	6. 最初と最後の頁 459-483
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Hironori Tohyama, Yuji Harada	4. 巻 12
2. 論文標題 Institutional Diversity, Industrial and Innovative Specialization in Asian Capitalism	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms: Transformations of Regional Integration in EU and Asia	6. 最初と最後の頁 333-359
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Uni	4. 巻 4
2. 論文標題 Comparative Analysis of Regional Trade Imbalance in East Asia and the Eurozone	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms: Transformations of Regional Integration in EU and Asia	6. 最初と最後の頁 93-122
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroshi Nishi	4. 巻 43
2. 論文標題 An empirical contribution to Minsky's financial fragility: evidence from non-financial sectors in Japan	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Cambridge Journal of Economics	6. 最初と最後の頁 585-622
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1093/cje/bey031	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Hiroyuki Uni	4. 巻 LI12
2. 論文標題 John R. Commons's Criticism of Classical Economics	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Economic Issues	6. 最初と最後の頁 396-404
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/00213624.2018.1469886	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計31件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 山田鋭夫
2. 発表標題 社会的連帯経済とウェルビーイング
3. 学会等名 進化経済学会第28回大会 (福井県立大学2024年3月17日)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 遠山弘徳
2. 発表標題 市場社会と社会的選好の進化
3. 学会等名 進化経済学会第28回大会 (福井県立大学2024年3月17日)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 宇仁宏幸
2. 発表標題 世界金融危機とユーロ危機の特徴と制度的要因
3. 学会等名 進化経済学会第28回大会 (福井県立大学2024年3月16日)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 植村博恭
2. 発表標題 日本の制度派ポスト・ケインジアンの継承：21世紀の発展
3. 学会等名 ポスト・ケインズ派経済学研究会，2024年3月23日（招待講演）
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 植村博恭
2. 発表標題 成長レジーム分析の基礎理論
3. 学会等名 進化経済学会第27回大会（立教大学2023年3月）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 遠山弘徳
2. 発表標題 イノベーション主導型アジア資本主義の比較分析？『知識経済』への適応と労働市場制度
3. 学会等名 進化経済学会第27回大会（立教大学2023年3月）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 西洋
2. 発表標題 Fiscal policy and social infrastructure provision under alternative growth and distribution regimes
3. 学会等名 進化経済学会大会第27回大会（立教大学2023年3月）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 山田鋭夫
2. 発表標題 「山田鋭夫著『ウェルビーイングの経済』論評へのリプライ」
3. 学会等名 日本政治法律学会2022年度秋季研究大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 植村博恭
2. 発表標題 進化的制度分析と成長レジーム分析の統合：レギュラシオン理論とポスト・ケインジアン理論の補完的発展
3. 学会等名 進化経済学会第26回京都大会（同志社大学）3月27日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 磯谷明德
2. 発表標題 進化経済学における制度の問題をめぐって
3. 学会等名 進化経済学会第26回京都大会（同志社大学）3月26日（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 山田鋭夫・平野泰朗
2. 発表標題 ボワイエ・パンデミック分析から考える資本主義的進化の方向
3. 学会等名 進化経済学会第26回京都大会（同志社大学）3月27日（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 田原慎二
2. 発表標題 産業連関分析による成長レジームの波及効果推定
3. 学会等名 進化経済学会第26回京都大会（同志社大学）3月27日
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 宇仁宏幸
2. 発表標題 J.R. コモンズの適正価値論の再評価 - - 現代政治哲学の議論をふまえて
3. 学会等名 進化経済学会制度と統治部会研究会、オンライン、2021年10月31日
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 植村博恭
2. 発表標題 資本主義の制度分析における社会的選好と市民社会：ポウルズとポワイエを総合する可能性
3. 学会等名 第24回進化経済学会大会（東北大学2020年5月24日）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 植村博恭
2. 発表標題 レギュレーション理論の意義とポワイエ理論の到達点：コロナ・パンデミック以後を見すえて
3. 学会等名 第25回進化経済学会大会（静岡大学2021年3月28日）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原田裕治
2. 発表標題 制度的構図と信頼構造の多様性とその変容
3. 学会等名 第24回進化経済学会大会（東北大学2020年5月24日）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 原田裕治
2. 発表標題 制度と信頼：制度-;主体リンケージの実証分析に向けて
3. 学会等名 第25回進化経済学会大会（静岡大学2021年3月28日）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 磯谷明德
2. 発表標題 日本経済における階層的市場 - 企業ネクサスとその変容
3. 学会等名 第25回進化経済学会大会（静岡大学2021年3月28日）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西洋
2. 発表標題 Modeling growth regimes within a Régulation theory
3. 学会等名 第25回進化経済学会大会（静岡大学2021年3月28日）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroyasu Uemura
2. 発表標題 The Evolving Diversity and Interdependence of Growth Regimes and De-industrialization in European Countries and Japan
3. 学会等名 International Conference on Economic Theory and Policy (Meiji University2019年9月15日) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 植村博恭
2. 発表標題 制度派進化経済学(レギュレーション・アプローチ)と市民社会認識はいかにつながるか? : 理論的検討と政策構築
3. 学会等名 専修大学社会科学研究所定例研究会 (専修大学サテライトキャンパス2019年7月10日)専修大学社会科学研究所(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroyuki Uni
2. 発表標題 Profit Rate Differential by Firm Size since the 1990s in Japan
3. 学会等名 International Conference on Economic Theory and Policy (Meiji University2019年9月17日) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Hiroyuki Uni
2. 発表標題 Dynamics of Profits and Growth in Japanese Firm
3. 学会等名 AFEP/IIPPE International Conference 2019(Sciences Po Lille2019年7月5日) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 植村博恭
2. 発表標題 ポワイエ理論の到達点と理論的課題：国際共同研究の発展に向けて
3. 学会等名 進化経済学会現代日本の経済制度部会・制度と統治の部会共催研究会（名古屋大学2020年1月25日）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 山田鋭夫
2. 発表標題 レギュレーション・アプローチはどこまで来たか
3. 学会等名 進化経済学会現代日本の経済制度部会・制度と統治の部会共催研究会（名古屋大学2020年1月25日）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 宇仁宏幸
2. 発表標題 資本主義の現在とレギュレーションアプローチのこれから
3. 学会等名 進化経済学会現代日本の経済制度部会・制度と統治の部会共催研究会（名古屋大学2020年1月25日）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Hiroyasu Uemura, Shinji Tahara
2. 発表標題 The Transforming interdependence of Growth Regimes and De-industrialization in Japan and European Countries
3. 学会等名 Society for the Advancement of Socio-Economics (Doshisha University, June 24, 2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Hironori Tohyama, Yuji Harada
2. 発表標題 Institutional Diversity, and Industrial and Innovative Specialization in Asian Capitalism
3. 学会等名 Society for the Advancement of Socio-Economics (Doshisha University, June 24, 2018) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 植村博恭
2. 発表標題 Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms : レギュレーション理論国際共同研究の展望
3. 学会等名 進化経済学会第23回大会 (名古屋工業大学2019年3月16日)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 遠山弘徳、原田裕治
2. 発表標題 資本主義の多様性からみた制度・主体リンケージと経済動態
3. 学会等名 進化経済学会第23回大会 (名古屋工業大学2019年3月16日)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 宇仁宏幸
2. 発表標題 John R. Commons ' Criticism of Wicksell ' s Theory of Interest: Focusing on an influence of R. G. Hawtrey
3. 学会等名 進化経済学会第23回大会 (名古屋工業大学2019年3月16日)
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計13件

1. 著者名 ロベール・ボワイエ、山田 鋭夫	4. 発行年 2023年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 207
3. 書名 自治と連帯のエコノミー	

1. 著者名 磯谷明德・植村博恭編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 日本経済評論社	5. 総ページ数 370
3. 書名 制度と進化の政治経済学：調整の重層性と多様性	

1. 著者名 Hiroyasu Uemura	4. 発行年 2023年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 146
3. 書名 Japanese Institutional Post-Keynesians Revisited: Inheritance of Marx, Keynes and Institutionalism	

1. 著者名 山田鋭夫	4. 発行年 2022年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 284
3. 書名 ウェルビーイングの経済	

1. 著者名 宇仁宏幸・藤田真哉・北川亘太	4. 発行年 2023年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 348
3. 書名 現代制度経済学講義	

1. 著者名 Tohio Yamada	4. 発行年 2022年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 132
3. 書名 Civil Society and Social Science in Yoshihiko Uchida	

1. 著者名 山田 鋭夫	4. 発行年 2020年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 384
3. 書名 内田義彦の学問	

1. 著者名 ロベール・ボワイエ、山田 鋭夫、平野 泰朗	4. 発行年 2021年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 320
3. 書名 パンデミックは資本主義をどう変えるか	

1. 著者名 宇仁宏幸、巖成男、藤田真哉編	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 271
3. 書名 制度でわかる世界の経済：制度的調整の政治経済学	

1. 著者名 ロベール・ボワイエ著、山田鋭夫監修、原田裕治訳	4. 発行年 2019年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 440
3. 書名 資本主義の政治経済学――調整と危機の理論	

1. 著者名 Robert Boyer, Hiroyasu Uemura, Toshio Yamada, Lei Song (eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 502
3. 書名 Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms: Transformations of Regional Integration in EU and Asia	

1. 著者名 山田鋭夫、植村博恭、原田裕治、藤田菜々子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 藤原書店	5. 総ページ数 391
3. 書名 市民社会と民主主義：レギュレーション・アプローチから	

1. 著者名 Toshio Yamada	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Springer	5. 総ページ数 342
3. 書名 Contemporary Capitalism and Civil Society: The Japanese Experience	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Researchmap 植村博恭 https://researchmap.jp/huemura1 Robert Boyer Article http://robertboyer.org/fr/evolving-diversity-and-interdependence-of-capitalisms-transformations-of-regional-integration-in-eu-and-asia/ 北京大学政府管理学部 宋磊 http://www.dpe.pku.edu.cn/teacher/j08.html
--

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	山田 鋭夫 (Yamada Toshio) (10024978)	名古屋大学・経済学研究科・名誉教授 (13901)	
研究分担者	宇仁 宏幸 (Uni Hiroyuki) (90268243)	追手門学院大学・経済学部・教授 (34415)	
研究分担者	磯谷 明德 (Isogai Akinori) (60168284)	下関市立大学・経済学部・特命教授 (25501)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	遠山 弘徳 (Tohyama Hironori) (20202195)	追手門学院大学・経済学部・教授 (34415)	
研究分担者	木崎 翠 (Kizaki Midori) (40260541)	横浜国立大学・大学院国際社会科学研究院・教授 (12701)	
研究分担者	原田 裕治 (Harada Yuji) (70313971)	摂南大学・経済学部・教授 (34428)	
研究分担者	西 洋 (Nishi Hiroshi) (10509128)	阪南大学・経済学部・教授 (34425)	
研究分担者	田原 慎二 (Tahara Shinji) (70755248)	千葉商科大学・商経学部・准教授 (32504)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 Yokohama International Conference: Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms: Toward a New International Collaborative Research (横浜国立大学2019年9月13日)	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 Evolving Diversity and Interdependence of Capitalisms: Toward a Further Study (京都パレスサイド・ホテル、6月22日)	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

フランス	Institut des Ameriques	University of Paris 13		
中国	北京大学			